流山市議会選出のおだぎりたかしです。

以下、2 点、一般質問を行います。

一つ目の質問は「議会費の縮減」についてです。

一般会計に計上されている「議会費」は令和７年度、予算９３１万円に対し、決算額は５３９万円と執行率は約６割弱しかなく、議会費の半分が会場借上料です。交通の便や駐車場の確保台数、会議場の音響などの条件が合うのであれば、ホテルではなくとも広域連合議会が運営できるのではないかと考えます。

そこでお聞きします。県民に重い保険料をお願いし続け、さらに窓口負担の値上げも国では検討課題になっているもとで、議会費も聖域にせず、常日頃から改革し、範を示す努力が必要ですが、どう捉えていますか？答弁を求めます。

二つ目の質問は「健康寿命を延ばす市町村を増やす仕組みづくり」です。

令和７年度千葉県後期高齢者医療の概況を拝見すると、「健康寿命の延伸」は明記していても、その実績は事業費や実施市町村数、取組メニューです。高齢者で入院理由の多い骨折による入院率、要介護への移行率、フレイル改善率などの具体的「結果」が市町村別には示されず、深い考察が不十分だと感じます。

そもそも、令和７年度特別会計歳出に係る保健事業費は４４億１００万円余しかなく、保険給付費８，１２３億８千万円余の約０．５４％と極々わずかしかありません。ちなみに令和６年度決算でも０．５４％、令和８年度予算では約０．６０％と低水準です。また「保健事業と介護予防の一体的実施」は５４市町村すべてで実施しても、事業費はわずか６億１千万円余です。健康診査受診率は県内２位の流山市でも４８．４％で、県平均３５．１％です。歯科口腔健康診査にいたっては県平均１２．５％にとどまるっているわけです。

そこでお聞きします。高齢者が本当に望んでいるのは、年を重ねた分、多少は医療のお世話になりながらも、住み慣れた地域で自立し、楽しく、快適に生活できる期間、すなわち健康寿命を一日でも長くすることではないかと私は捉えていますが、広域連合として令和７年度千葉県後期高齢者医療の概況から、健康寿命の延伸をどのように把握し、次年度以降に結びつけようとしているのですか？また制度スタートして１９年目に差し掛かる今、組織として健康寿命の延伸に向けた具体的な考察はどのように展開され、その重要性をどう認識しているのか具体的的にお示しいただきたい。答弁を求め、１回目の質問を終わります。